

項目	●色教師アンケート項目 ●色生徒アンケート項目 ●色保護者アンケート項目		■そう思う ■ややそう思う ■ややそう思わない ■そう思わない			肯定否定割合		総合評価
	番号	具体的な評価内容	自己評価割合 (%)			肯定%	否定%	
Ⅰ 教育目標について	①	学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。				100	0	A
	②	目指す生徒像を意識して、教育活動を行っている。				100	0	A
	考察	学校経営方針に基づき、目指す生徒像を意識して教育課程全体において先生方が熱心に取り組んでいる。先生方は、「若草中スタンダード」をはじめ、「ICT活用」「学び合い」など、学力向上に向けた取組も熱心に行われている。普段の生活はもとより学園祭体育の部や合唱活動、強歩大会への取組みなど行事を通じた活動の中でも生徒理解を深めている。						
	改善	小中一貫校として小学校との連携を意識しながら、人事評価や一人一実践における改善点により各自の教師としての質を高める。また、学校行事や特別活動におけるPDCAサイクルを意識した取組を行う。学校評価の各アンケートの結果を真摯に受け止め、今後の改善に役立てる。						
	学校関係者評価委員会意見	・小中一貫校としての取り組みが始まり、様々な活動を通して先生方が意識して取り組んでいる姿がうかがえる。 ・小中一貫で取り組んでいる、地域貢献活動や挨拶運動、陸上競技指導など小学生があんな中学生になりたいと思えるような活動をし、中学生も誇りをもって活動している姿がうかがえた。						
Ⅱ 校務分掌について	①	職務内容を十分理解し、他の教員と連携して協働体制で仕事にあたっている。				97	3	A
	②	分掌の達成状況、改善点などを管理職に「報告、連絡、相談、確認」している。				97	3	A
	③	管理場所の安全点検を行い、常に適切な安全管理に努めている。				100	0	A
	考察	評価は良好である。①②の否定数については、昨年度からの引継ぎの際に曖昧な部分があったためとの意見があったが、教員同士助け合いながら様々な活動が行われていた。						
	改善	・学校を持続可能な活動にしていけるため管理職、主幹、生徒指導主事、学年主任間の情報交換のさらなる意識化し、公務分掌の引継ぎが円滑に行われるよう各分掌でマニュアル作りを進めていく。 ・できる人がやるのではなく、複数人で行う仕組みを作り、次へつなげるよう各職員が意識する。(教師の意識化)						
学校関係者評価委員会意見	・自己評価が高く、先生方が良く連携しながら職務に当たっている姿がうかがえる。 ・生徒の安全常に意識し、安全点検を行うなど、総合評価が高く全員が意識していて素晴らしい。							
Ⅲ 学習指導・進路指導について	①	基礎・基本の定着を図る授業を行っている。				100	0	A
	生2	あなたは、学校の授業内容がよくわかっていますか。				91	9	B
	保2	お子さんは、授業内容をよく理解していますか。				67	33	C
	②	生徒の思考力・判断力・表現力、学習意欲を向上させる教科指導のあり方や教育内容の工夫改善に努めている。				100	0	B
	③	研究主題を意識した「学び合い」のある授業を実践している。				100	0	B
	生9	先生方は、授業に意欲的に取り組めるように学び合いのある授業や、ICTや教材を工夫して授業を行っていると思いますか。				96	4	A
	保9	先生方は、お子さんが意欲を持って取り組めるよう、ICT活用など授業の工夫をしていると思いますか。				86	14	B
	④	指導と評価の一体化を心がけ、生徒の意欲や自信につながる評価を行っている。				97	3	B
	考察	・教員は基礎基本の定着を意識して授業を行っていると考えている。生徒は概ね授業の内容を理解しているようであるが、保護者から見ると授業の理解については33%が不十分だと感じている。 ・ICTの利用や学び合い活動については、全ての先生方が工夫改善に努めていることがわかる。生徒96%・保護者86%が学び合いや、ICT等の授業の工夫について肯定的である。						
	改善	・基礎学力の定着や授業の理解については、放課後学習会をこれからも定期的に計画し、子供たちにわかる喜びと自ら学ぶ力をつけるきっかけづくりを行っていく。 ・授業の工夫も大切であるが、家庭学習の定着や繰り返しの練習での学力の定着も必要である。						
学校関係者評価委員会意見	・生徒が意欲を持ち、興味・関心を伸ばす取り組みは先生方の生徒への期待感の表れだと感じる。 ・授業内容が分からない生徒が出てしまうのはある程度仕方がないが、それを踏まえて、放課後学習会などを行い生徒の基礎力をつけようと取り組んでいる活動がありがたい。							

IV 生徒指導・ 道徳指導 について	①	生徒理解のために生徒とのコミュニケーションを図る努力をしている。		100	0	A	
	生10	困ったことがあったら、相談できる先生がいますか。		84	16	B	
	保10	お子さんのことで、相談できる先生がいますか。		82	18	B	
	②	一人一人のよさを認め合う態度、望ましい人間関係を育てる指導を行っている。		100	0	A	
	③	道徳の授業を年間計画に沿って実践し、道徳的実践力を高めるための指導を授業以外でも日常的に取り組んでいる。		100	0	B	
	生11	学校は、道徳教育（人間の生き方やあり方）を行い、心を育てる教育をしていると思いますか。		96	4	A	
	保11	若中生は、道徳授業で学んだ、人としての生き方、思いやりの心を持つ、生命の大切さなど、日常生活に生かしていると思いますか。		90	10	B	
	④	不登校やいじめについて、積極的な情報収集を行い、早期発見・早期対応を意識して取り組んでいる。		97	3	A	
考察	<ul style="list-style-type: none"> 生徒とのコミュニケーションを大切にし、生徒が安心して、学校生活を送れるよう先生方が努力している姿勢がうかがえる。 生徒や保護者の中には16%～18%学校に相談できる先生がいないと答えている。学校の先生だけでなく、外部機関（SC、SSW、支援学校等）との連携を大切にし様々な角度からのアプローチが必要であると考えられる。 日常的に道徳的実践を行い、生徒の意識や保護者の認知度も高い。 「いじめは絶対にゆるさない」という強い姿勢を先生方は持っており、道徳指導はもちろん、アンテナを高くし、教職員の情報収集と情報交換も頻繁に行われ早期発見・早期対応に努めている。 						
改善	<ul style="list-style-type: none"> 今後もひとり一人の生徒を大切にしたい対応を続けていく。（生徒理解と生徒情報交換の大切さを全職員が意識化） チームとして対応が必要な場合の組織を強固にする。（学年主任、生徒指導主事、養護教諭、SC、SSW等関係職員） いじめはどこの学校でも誰にでもおこりえるというスタンスを常に持ち、早期発見・早期対応に努める。（教師の意識化） 新たな不登校を生まないための取組を、今後も継続していく。（生徒理解・小中連携・生徒支援委員会等） 						
学校関係者評価委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> ローテーション道徳などを行い、担任一人だけの目ではなく大勢の目で生徒の良いところを見つけていく活動が良い。 外部の施設や、SC、SSWなどの人がいて、生徒の居場所がある。ここにいってもいいんだと感じること、担任以外でも誰かがいる大切さを感じた。生徒の不安や悩みを少しでも取り除いていこうとする取り組みが見える。すぐに成果が出ないこともあるかもしれないが、継続して進めてほしい。 						
V 特別活動 について	①	生徒の自主性を育成し、学級や学年、学校生活の充実を図るための指導を行っている。		100	0	A	
	②	さまざまな行事や活動を仕組み、達成感や達成感が満たされる内容を工夫している。		100	0	A	
	生12	学校の行事や生徒会の行事などは、自分の成長に役立っていると思いますか。		97	3	A	
	保12	学校行事を工夫して行うことで、生徒の心身の成長の一助となっていると思いますか。		95	5	B	
	③	朝読書や図書館の活用を積極的に進め、豊かな感性の育成を図っている。		97	3	A	
	④	充実した委員会活動や部活動を行うことができるような指導に努めている。		100	0	B	
	考察	<ul style="list-style-type: none"> 行事が縮小されるなか、生徒や保護者の評価が高評価となっている。生徒に満足感や達成感が味わえるよ、行事の工夫や愛情を持って生徒に寄り添っていることがわかる。保護者も行事を中止することなく工夫して行うことで、生徒の心身の成長の一助になっていると感じている。 朝読書は今年で8年目となる活動である。一日の始まりが静かで落ち着いた雰囲気からスタートすることは、授業への集中力の高まりや穏やかな生活につながっていると思われる。 					
	改善	<ul style="list-style-type: none"> 各行事の目的や意義、取組方を全職員で共通で確認をする。（各行事ごとにPDCAサイクルにて検証と改善を含む） 学校での活動の様子が保護者に伝わるよう種々たより、HPの充実に取り組む。（各担当者） 朝読書の時間を生徒も教師も全員が本を読む時間にする。（職員の意識化） 委員会や生徒会活動においても、今できることを大切に持続可能な取組を強化していく。 					
学校関係者評価委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中で、よく考えた取組みがなされていると感じた。 コロナで見ることができなかった学園祭を始めて見学したが、生徒が主体的に行っていると感じた。 生徒会活動がとても盛んであり、正義感や責任感を持ってやっていると感じる。 						

VI 家庭・地域との連携について	①	地域や保護者からの情報や要望を真摯に受けとめ、日々の教育活動に反映できるように努めている。		100	0	A
	②	学校・学年・学級だより等の諸たよりを定期的に発行し、またホームページを活用して、学校や生徒の様子を積極的に公開している。		75	25	C
	生13	学校からのお知らせ（学級・学年・学校・保健室・図書室など）を、保護者へ伝えて（渡して）いますか。		93	7	A
	保13	若中は、学校の様子などを、各種たよりやホームページ、安心メールなどを通じて、わかりやすく伝えていきたいと思いますか。		85	15	B
	考察	各学年ともに保護者との連携を大切にし、生徒の良き成長を願っている。保護者等からのアドバイスにはよく耳を傾け対応を行っている。たよりについて各クラス、各学年、各担当で、それぞれの思いや願いを込めて適切な時期にたよりを発行している。多くの情報が、適切な形で保護者に伝わることは、お互いの信頼関係を高めるうえで効果的に働き、開かれた学校づくりに大きく役立っている				
	改善	<ul style="list-style-type: none"> 各種たよりの継続的発行と内容の工夫改善を行う。（各発行者） ホームページ等さらなる更新を行う。（担当に任せるのではなく、各学年でも更新していく） 安心安全メールについては、頻度が多く見落としてしまうという意見があり「連絡」「回答」「重要」など分かりやすく題名に書くようにしていく。 				
学校関係者評価委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> 学校安心メールについては、やはり何度か見落としたことがある。改善点の通りに分かりやすくしてもらえると、保護者としても助かる。 					
VII 自身と職場について	①	ライフ・ワークバランスを意識した業務改善に努めている。		66	34	C
	生1	あなたは、毎日元気に楽しく学校に登校していますか。		92	8	A
	保1	お子さんは、毎日元気に学校に通っていますか。		86	14	A
	②	教師としての力量を高め、子供たちに信頼されるよう努めている。		97	3	B
	考察	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の34%がライフ・ワークバランスを意識した業務改善に努められていない。 職員室では、生徒の頑張りや心配になる点など、学年を越えて話が行われ、常に生徒のより良き成長を願っている姿勢がある。生1の「あなたは、毎日元気に楽しく学校に登校していますか。」がA評価ではあるが、8%ほどの生徒が否定意見を出している。今後も一人も取り残すことなく、生徒理解に努めることが大切である。 				
	改善	<ul style="list-style-type: none"> 誰一人取り残さない学校を目指すには、教職員自らが心にも体にも余裕を持てるよう心がけていく。 生徒の育成、理解のためには学年を越えた情報交換を今後も行う。（生徒指導・学年主任・教師の意識化） 教師としての力量を高めるため、専門性や総合的なコミュニケーション能力を高める努力を続ける。（教師の意識化・管理職・主幹・学年主任・モデルリーダー） 				
学校関係者評価委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> 学校が楽しくない数パーセントの生徒の実態をしっかり把握して、今後の学校生活が少しでも楽しくできるよ話を聞いてほしい。 先生方のライフ・ワークバランスのC評価を何とかして改善し、生活に余裕を持つ中でいろんな経験を生徒たちに還元してもらえるとありがたい。 					
施設設備について	①	学校には、教育活動に必要な施設・設備が整っている		59	41	C
	生14	学校には、教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか。		88	12	B
	保14	学校には、教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか。		79	21	C
	考察	<ul style="list-style-type: none"> ・部室等や駐輪場、テニスコートなど新しくなった部分もあるが、生徒・保護者・教職員ともに教室環境や教室数などまだまだ施設整備を整えていく必要性を感じている。 				
	改善	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も各学年を中心に教室環境、フロア環境を整える。 ・必要なものを年次計画で継続して請求していく。（施設・設備については教頭、各種備品については教科主任、その他必要な物品については各担当が責任を持って請求する） 				
	学校関係者評価委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活が充実していれば、施設設備が充実していなくても生徒は満足すると思うので、これからも何が大切かをしっかり考えられる生徒になってほしい。 				